

# 農地法第4条第1項の規定による許可申請書

平成 ○○ 年 ○○ 月 ○○ 日

沖縄県知事 殿

申請人 八重瀬 太郎



下記によって農地を転用したいので農地法第4条第1項の規定によって許可を申請します。

1 申請人の住所等	住所 沖縄県 島尻市 八重瀬村 字○○○ ○○○番○○号						職業 農業	年齢 ○○			
	<p>職業・職種を具体的に記入 土地の登記事項証明書に記載された小字まで記載 現況も必ず記載 欄に余白の行が発生する場合は「以下余白」と記載</p>						耕作者氏名 八重瀬 太郎	市街化調整区域 市街化調整区域			
2 許可を受けようとする土地	市町村	大字	字	地番	登記簿	現況	面積 (㎡)	利用状況	10アール当り普通取穫高	耕作者氏名	市街化調整区域の別、およびその他参考となるべき事項
	字○○	○○原	○○-○	畑	畑	畑	500	訂正不可		八重瀬 太郎	該当する場合のみ記入
3 転用計画	計 500		1, 2の住宅に該当しない場合は、3に転用目的を明確、簡潔に記載		(2)転用の詳細		なぜ転用が必要なのか具体的な理由、事情を記載(転用の必要性を確認するため)単に「○○の建築」等とするのは不適當		・資材置場として使用 ・農業用倉庫として使用		
(3) 事業の操業期間または施設の利用期間	許可日		年 月 から 永 年間		建築面積と床面積は異なるので要注		申請地の農地以外に事業で一体利用する土地があれば、その土地の面積と合算した面積を記載。		年数が決まっている場合は永年ではなく年数を記入 工期ごとの計画を合計した面積等を記載		
(4) 転用の時期および転用の目的に係る事または施設の概要	工事計画	名称	棟数	建築面積	所要面積	棟数	建築面積	所要面積	棟数	建築面積	所要面積
	住宅の場合でも「住宅」と記載	住宅	1	300㎡	500㎡				1	300㎡	500㎡
4 資金調達計画	転用事業に必要な金額とその調達方法を記載(「○○銀行から借入」、「自己資金」等) ※土地の取得費も含めた総事業費用を記載すること。例:土地○円、建築費○円、総事業費○円 ※現況利用で資金不要の場合はその旨記載すること。										
5 転用することによって生ずる付近の土地・作物・家畜等の被害防除施設の概要	単に「防除措置を行う」や「被害が発生した場合は適切に対応する」等の記載では不可。具体的な措置の概要を記載し、必要に応じて資料を添付。										
6 その他参考となるべき事項	申請地の農地以外で事業に一体利用する土地があれば、その土地の情報(地番、地目、面積等)を記載。仮換地中の土地であれば、換地後面積を記載。その他、裏面【記載要領】の8を確認										
以下の事項は許可権者が記載します。申請時点ではなにも記載しないでください。知事名の記載も不要。											
<p>沖縄県指令農第 号</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>申請人 八重瀬 太郎</p> <p>申請人は記入しない</p> <p>許可権者訂正欄</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>訂正、再交付</p>											

【注意事項】【教示】裏面を読んでください。

## 様式第5号の1(知事許可)

### 【許可条件】

- 1 申請書に記載された事業計画に従って事業の用に供すること。
- 2-1 許可に係る工事が完了したときは、遅滞なく、工事完了報告書を関係市町村農業委員会を経由して知事あて提出すること(完了状況を示す写真及び同写真の撮影方向を示す図面並びに本件許可書の写しを添付すること。)  
なお、許可に係る工事が完了するまでの間、本件許可の日から3か月後及びその1年ごとに工事の進捗状況を報告すること。
- 2-2 本件許可後の施設利用開始日から3か月後及びその後6か月後に本件許可地の事業遂行状況を関係市町村農業委員会を経由して知事あて報告すること(利用状況を示す写真及び同写真の撮影方向を示す図面並びに本件許可書の写しを添付すること。)
- 2-3 許可期間は、許可の日から平成 年 月末日までとし、期間内に農地へ復元すること。
- 3 地目変更の登記は、関係市町村農業委員会が利用の状況を適当と認めて発行する現況証明によること。

(注意)許可条件等については、許可権者以外加筆しないで下さい。

### 【注意事項】

許可条件に違反した場合(許可に係る土地を申請書に記載された事業計画(用途、施設の配置、着工及び完工の時期、被害防除措置等を含む。)に従ってその事業の用に供しないときなど)及び農地法第51条第1項の規定により必要と認めるときはその許可を取り消し、その条件を変更し、若しくは新たに条件を付し、又は工事その他の行為の停止を命じ、若しくは相当の期限を定めて原状回復の措置等を講ずべきことを命ずることがあります。

### 【教示】

- 1 この処分不服があるときは、行政不服審査法(平成26年法律第68号)第4条の規定により、この処分のあったことを知った日の翌日から起算して3か月以内に、沖縄県知事に審査請求書(同法第19条第2項各号に掲げる事項(審査請求人が、法人その他の社団若しくは財団である場合、総代表を互選した場合又は代理人によって審査請求をする場合には、同法同条第4項に掲げる事項を含みます。))を記載しなければなりません。))を提出して審査請求をすることができます。  
ただし、当該処分に対する不服の理由が鉱業、採石業又は砂利採取業との調整に関するものであるときは、農地法(昭和27年法律第229号)第53条第2項の規定により、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3か月以内に、公害等調整委員会に裁定申請書(鉱業等に係る土地利用の調整手続等に関する法律(昭和25年法律第292号)第25条の2第2項各号に掲げる事項を記載しなければなりません。))を提出して裁定の申請をすることができます。  
なお、この場合、合わせて処分庁及び関係都道府県知事の数に等しい部数の当該裁定申請書の副本を提出してください。
- 2 この処分については、上記1の審査請求のほか、この処分があったことを知った日の翌日から起算して6か月以内に、沖縄県を被告として(訴訟において県を代表する者は沖縄県知事となります。)、処分の取り消しの訴えを提起することができます。  
なお、上記1の審査請求をした場合には、処分の取消しの訴えは、その審査請求に対する判決があったことを知った日の翌日から起算して6か月以内に提起することができます。
- 3 ただし、上記の期間が経過する前に、この処分(審査請求をした場合には、その審査請求に対する判決)があった日の翌日から起算して1年を経過した場合は、審査請求をすることや処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。  
なお、正当な理由があるときは、上記の期間やこの処分(審査請求をした場合には、その審査請求に対する判決)があった日の翌日から起算して1年を経過した後であっても審査請求をすることや処分の取消しの訴えを提起することが認められる場合があります。

### 【記載要領】

- 1 氏名(法人にあつてはその代表者の氏名)を自署する場合には、押印を省略することができます。
- 2 関係者が法人である場合には、「氏名」欄にその名称及び代表者の氏名を、「住所」欄にその主たる事務所の所在地を、「職業」欄にその業務の内容を、それぞれ記載してください。
- 3 「利用状況」欄には、田にあつては二毛作又は一毛作の別、畑にあつては普通畑、果樹園、桑園、茶園、牧草畑又はその他の別を記載してください。
- 4 「市街化区域・市街化調整区域・その他の区域の別」欄には、申請に係る土地が都市計画法による市街化区域、市街化調整区域又はこれら以外の区域のいずれに含まれているかを記載してください。
- 5 「転用の時期及び転用の目的に係る事業又は施設の概要」欄には、工事計画が長期にわたるものである場合には、できる限り工事計画を6か月単位で区分して記載してください。
- 6 申請に係る土地が市街化調整区域内にある場合には、転用行為が都市計画法第29条の開発許可及び同法第43条第1項の建築許可を要しないものであるときはその旨並びに同法第29条及び第43条第1項の該当する号を、転用行為が当該開発許可を要するものであるときはその旨及び同法第34条の該当する号を、転用行為が当該建築許可を要するものであるときは、その旨及び建築物が同法第34条第1号から第10号まで又は都市計画法施行令第36条第1項第3号ロからホまでのいずれの建築物に該当するかを、転用行為が開発行為及び建築行為のいずれも伴わないものであるときは、その旨及びその理由を、それぞれ「その他参考となるべき事項」欄に記載してください。
- 7 「2 許可を受けようとする土地の所在等」については、「地番」及び「面積」は訂正できません。また、申請に係る土地が、一筆の農地等のうち一部を転用し、所有権移転等により地目変更等の登記手続きを要する場合には、申請前に分筆を行うなど申請面積が申請後に変更となることがないようにしてください。